

Researcher Mobility Grant 報告書

<招聘教授・研究員の情報 / Guest Professor・Guest Scholar>

1. 氏名/Name

Marc Toutant

2. 所属機関・職名/Affiliation (Home Organization)・Position

CNRS (Centre national de la recherche scientifique, France)

Chargé de recherche/Permanent researcher

3. 研究期間 (入国日～出国日) /Period of Stay (from the date of entry to departure)

2026/7/8～2026/7/27

4. 専攻/Field of Research

Islamic Studies

5. ホスト教員氏名と所属学部研究科等/Name of host teacher and affiliation

井上貴恵 文学部心理社会学科哲学専攻

6. 講演会の概要 (タイトル、日時、場所、参加人数、内容)

本事業では、フランス国立科学研究センター (CNRS) 研究員であり、中央アジアにおけるイスラム思想・文学研究の第一人者であるマルク・トゥタン (Marc Toutant) 氏を招聘し、明治大学駿河台キャンパスにて計3回の講演会・ワークショップを開催した。

中央アジア域におけるペルシア語・チャガタイ語文献を用いたスーフィズム (イスラム神秘主義) 思想研究は、世界的に見ても貴重な領域であり、日本国内においては専門研究者が極めて少ないのが現状である。一方、日本は井筒俊彦以来のイブン・アラビー学派研究の伝統を有している。本講演会シリーズは、トゥタン氏の最新の研究成果を日本にもたらすと同時に、日本におけるイスラム思想研究者との密接な学術対話および国際的な連携の強化を目的として実施された。

【第1回】講演会：「神を旅する」——イブン・アラビー思想の中央アジアにおける受容

タイトル：*Ibn 'Arabi's 'Journey in God' and Its Central Asian Reception* (「神を旅する」——イブン・アラビー思想の中央アジアにおける受容)

日時：2026年7月10日 (金) 17:00–18:30

場所：明治大学 駿河台キャンパス グローバルフロント 17 階 会議室

参加人数：8名

内容：15世紀中央アジアを代表する詩人・思想家アリー・シール・ナヴァーイー (1441–1501) の著書より、スーフィーらが神秘階梯を行く中で味わう「困惑」の概念を中心に、神智学的なナラティヴの中で「心」がどのように描写されているかを検証した。ナヴァーイーが描く「3つの惑い (困惑)」の体験と神の唯一性の目撃 (証言) というテーマを、イブン・アラビーの著作『旅の果実からの開頭の書』との比較を通じて読み解き、中央アジアにおけるイブン・アラビー思想の波及と展開を明らかにした。

【第2回】シンポジウム：イスラム神秘主義哲学——伝統と革新

タイトル：Islamic Mysticism and Philosophy: Between Tradition and Innovation（イスラム神秘主義哲学——伝統と革新）

トゥタン氏発表：Ibn 'Arabī's Theosophy of Love in Central Asian Poetry

澤井真氏発表：Islamic Mystical Philosophy Today: An Attempt to Innovate the Understanding of "the Human" from Ibn 'Arabī's Thought

日時：2026年7月11日（土）14:00–17:00

場所：明治大学 駿河台キャンパス リバティタワー9階 1095 教室

参加人数：10名

内容：天理大学の澤井真氏との共催による研究会形式のシンポジウム。トゥタン氏は中央アジア詩におけるイブン・アラビーの「愛の神智学」の受容と展開について論じた。続く澤井氏の発表では、イブン・アラビー思想をもとに現代における「人間」理解の革新を試みる論考が提示され、発表後には「伝統と革新」をめぐって参加者を交えた活発な質疑応答と多角的な討論が行われた。



【第3回】

タイトル：Transnational Sufi Studies: Sufi Studies in France（エディンバラ大学–明治大学国際連携講座『世界哲学』を考える」内セッション）

日時：2026年7月14日（火）14:30–17:00（討論時間含む）

場所：明治大学 駿河台キャンパス アカデミーコモン 308B 教室

参加人数：8名

内容：エディンバラ大学と明治大学による国際連携講座「世界哲学における日本哲学」の一環として開催された。トゥタン氏は「フランスにおけるスーフィズム研究（Sufi Studies in France）」と題し、越境的・超国家的な視点からフランスにおけるイスラム神秘思想研究の歴史、展開、および現在の潮流について概括した。発表後の総合討論では、日本哲学や世界哲学の文脈とイスラム研究との比較思想的接点についても有意義な対話がなされた。

7. 研究課題、研究概要、研究期間中の活動実績 / Research Theme, Outline, Results

本講演会シリーズを通じ中央アジアにおけるペルシア語・チャガタイ語圏のスーフィズム思想研究の最新成果が共有され、国内のイブン・アラビー研究者との間で極めて質の高い学術的交流が実現した。小規模ながら専門性の高い参加者が集まり、非常に濃密な討議が行われたことで、日仏間の国際的な研究協力関係が一段と強化されたように思う。今回は学生にも積極的に参加を呼びかけ、質疑等については日本語から英語へ通訳する役割を担う教員を配置したことで、学生からもコメントが寄せられた。今後もトゥタン氏および CNRS との継続的な連携を図り、比較思想研究の新たな知見を世界へ発信していく所存である。